



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報. 人文學報 2003, 88: 119-140

ISSUE DATE:

2003-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/48616>

RIGHT:

彙 報

2002 年（平成 14 年）1 月～2002 年（平成 14 年）12 月

研 究 状 況

I 班 研 究

人文学研究部

日本の植民地支配 — 朝鮮と台湾 —

班長 水野直樹

日本の植民地支配の全体像を解明することをめざして、朝鮮と台湾における植民地政策の比較、日本の政治・経済・社会などとの関連に重点を置いて、研究を進めた。朝鮮と台湾との比較を念頭に置きながら、日本史・朝鮮史・台湾史などの研究者による共同研究を通じて、植民地支配の諸相を明らかにすることに努めた。現在、成果のまとめを行なっているところである。

班員 籠谷直人 菊地暁 高木博志 山室信一（以上所内） 伊藤之雄（法学研究科） 駒込武（教育学研究科） 永井和（文学研究科） 堀和生（経済学研究科） 青野正明（聖和大） 浅井良純（天理大非常勤） 桂川光正（大阪産業大） 河合和男（奈良産業大） 河原林直人（大阪市立大・院） 北波道子（関西大・院） 呉宏明（京都精華大） 近藤正己（近畿大） 杉原達（大阪大） 鄭根埴（全南大） 富山一郎（大阪大） 土井浩嗣（神戸大・院） 藤永壮（大阪産業大） 朴一（大阪市立大） 朴宣美（京大・院） 本間千景（仏教大・院） 松田利彦（日文研） 松田吉郎（兵庫教育大） 山田敦（学術振興会特別研究員） イ・ジョンミン（学術振興会外国人

特別研究員） 李昇燁（京大・院）

2 月 6 日 台湾の農会について 松田
二つの植民地人類学研究室 — 小川コ
レクションと赤松文庫 — 菊池

2 月 20 日 台湾財界における重役兼任について
— 1936 年時点での考察 — 河原林
「桃園沖積扇」における小作争議と農
業政策 宗田昌人

3 月 6 日 台湾・朝鮮におけるキリスト教系私学
と神社参拝問題 駒込
研究班成果のまとめについて話し合い

3 月 20 日 想像の中の差異、構造の中の同一
— 京城帝国大学と台北帝国大学との
比較からみた植民地近代性 —

白永瑞（延世大）

韓国併合前後における日本人官僚につ
いて — 地方行政および警察を中心に —
浅井

ポルノグラフィー研究 — エロスとその表象をめぐって —

班長 大浦康介

本研究は、文学テキスト、絵画、写真、映画、ビデオ、コミックなど、さまざまな媒体をつかった性表象の分析をつうじて、エロスの内実とその表象可能性や、それらの表象を横断する〈主体〉、〈社会〉、〈民族〉、〈国家〉、〈性差〉、〈宗教〉、〈倫理〉などの問題を考えることを目的とする。近代ヨーロッパにおける「ポルノグラフィーの発明」をひとつの目安として、日本近現代の性表象・性文化や中国、アメリカの事例などを検討しつつ、この分野での新たな理論的地平を模索しようとするものである。期間は

3年。原則として月2回の会合をもったが、最終年度にあたる2001年の秋からは、報告書作成に向けた原稿検討会を開いた。

班員 北垣徹 金文京 田中雅一 東郷俊宏（以上所内） 小野原教子（神戸商大） 川村清志（人文研修員） 北原恵（甲南大） 小西嘉幸（大阪市大） 小山俊輔（奈良女子大） 関谷一彦（関西学院大） 棚橋訓（都立大） 早川聞多（日文研） 古川誠（関西大） 山路龍天（同志社大） 山本和明（相愛女子短大） 河田学 山口威（以上京大人環・院） 片平幸 渡辺綾香（以上総研大・院） 下野理恵（同志社大・院） 藤本純子（大阪大・院） 圓田浩二（関西学院大・院）

- 1月30日 和製女子プロレスへの提言 小野原
- 2月13日 ネットの中のフェティシズム 川村
- 3月6日 ポルノグラフィーとエロティシズム 関谷

「進化論」と社会

班長 阪上 孝

「進化論」的な思考様式は一九世紀後半以降の社会と学問の枠組そのものに深く根をおろしているといっていよう。「進化論」がさまざまな社会と学問分野でどのように理解・受容・批判されていったのかを比較検討することで、近現代の社会・文化・学問のありかたを、その問題性もふくめて明らかにすること、これが本研究班の基本的なねらいである。

2002年3月に、予定されていた三年の期間を終了し、同時に科学研究費の成果報告書を刊行した。八月には清滝で合宿を行ない、最終報告書にむけての原稿を相互に検討した。その成果は、近く京都大学学術出版会から出版される予定である。

班員 加藤和人 小林博行 竹沢泰子 武田時昌 田中雅一 富永茂樹 山室信一（以上所内） 小山哲（文学研究科） 大澤真幸（人間・環境学研究科） 大東祥孝（留学生センター） 八木紀一郎（経済学研究科） 上野成利（神戸大） 宇城輝人（福井県立大） 小川真里子（三重大） 川越修（同志社大） 北垣徹（西南学院大） 小林清一（滋賀県立大） 斎藤光（京都精華大） 佐倉統（東京大） 白鳥義彦（神戸大） 瀧井一博（神戸商科大） 姫野順一（長

崎大） 前川真行（大阪女子大） 光永雅明（神戸市外大） 横山輝雄（南山大）

- 12月14日 マルクシズムとカトリシズムのはざま
でー進化論と世界観はどのように共
棲しうるか（20世紀後半ポーランド
の場合） 小山

- 1月11日 人類学における歴史と進化ー親族の
基本構造の変化をめぐる 田中

- 2月15日 生命の戦略とゲノムの可塑性
丹羽太貫（放射線生物研究センター）

- 3月8日 進化生物学と人間社会
河田雅圭（東北大）

テキストの政治学ー危機の時代における理論と批評ー

班長 森本淳生

20世紀の前半期は、近代的人間諸科学の「危機」が表面化し、その克服をめぐる言説がさまざまな領域で浮上してきた時代であった。しかしこれらの言説には、近代みずから自己自身のありようを反省するという屈折した自己意識の構造が、きわめて先鋭的なかたちで表現されている。こうしたテキストのねじれを解きほぐしながら、それらの言説に刻印された近代的な思考の回路を明らかにし、それが近代社会のありようとどのように絡み合っているのかを検証すること——これが本研究班の基本的なねらいであった。哲学、社会理論から科学論、さらには文学・芸術批評にいたるまでの当時の「危機」をめぐるテキストを、洋の東西を問わず精査することから本研究班は出発したが、2年日以降は「1930年代日本」に焦点を絞り込み、より精密な研究を試みた。当時まきおこされたさまざまな論争を跡づける作業を通じて、戦前期日本の言説空間を再構築するとともに、そこにおいてそれまでのジャンルやディシプリンが解体されつつ新たに再編成されるプロセスを、戦後日本のあり方との連続性にも注目しつつ、明らかにすることが本研究班の最終的な目標である。研究班自体は2002年3月に終了したが、現在は非公式に原稿検討会を続けており、2003年中には報告書を出版する予定である。

班員 落合弘樹 菊地 暁 小林博行 小牧幸代 坂本優一郎（以上所内） 岡真理（総合人間学部）

田辺明生（アジア・アフリカ地域研究科） 飯田祐子（神戸女学院大） 上野成利 宇野田尚哉（以上、神戸大） 崎山政毅 田崎英明（以上、立命館大） 辰巳伸知（仏教大） 長原豊（法政大） 細見和之（大阪府立大） 水嶋一憲 盛田良治（以上、大阪産業大） 門部昌志（長崎シーボルト大） 安田敏朗（一橋大）

- 1月26日 矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』盛田「共栄圏総力戦」の思想 宇野田
2月16日 日本語で科学を書く—1930年代『科学』術語検討欄の検討 小林
3月23日 磁場としての私小説論—小林秀雄と昭和10年前後 森本
孤独な共産主義者の一スケッチ—加藤正と「理論の党派制論争」の周辺 崎山
雄高、清輝、與重郎—30年代のひとつのコンステラティオン 細見
3月30日 戦時期の平野義太郎とその周辺 盛田
長岡新吉『日本資本主義論争の群像』 森本・崎山

安定社会と言語

班長 横山俊夫

3年間にわたり、人間社会の安定化と言語の変質とのかかわりの諸相を、生物群集の研究者とともに多面的に解明することを目指した。素材にはアジアやヨーロッパの宗教史、芸能史、文学史、科学史上の事例をえらんだ。この課題をかかげるのは現代の科学技術が個としての人間を萎縮させ、地球規模の閉塞社会をもたらしたはじめたなかで、それを明く安定社会に変えうるのは言語上の工夫ではないかとの想いからであった。参考資料として、17世紀後半の日本の色道論を輪読、その言語の質を検討した。

この研究は、話し言葉や名づけをめぐる試行的共同研究「言語力の諸相」（1997-98）や「新発見事物への名づけをめぐる学内共同のこころみ」（1998）の成果をふまえるとともに、京都ゼミナールハウス主催「京都国際セミナー／安定社会の総合研究」（1989-99）の蓄積を、さらに発展させることになった。現在、報告書のとりまとめを進めている。

班員 宇佐美齊 加藤和人 金文京 小林博行

武田時昌 東郷俊宏 森本淳生 I. J. McMullen Thomas Harper Gaye Rowley（以上所内） 山極壽一（理学研究科） 遊磨正秀（生態学研究センター）（以上学内） W. J. Boot（文学研究科） 荒牧典俊（大谷大学） 遠藤彰（立命館大学） 岡田曉生（神戸大学） 後藤静夫（国立文楽劇場） 廣瀬千紗子（同志社女子大学） 深澤一幸（大阪大学） 茂手木潔子（上越教育大学）

- 1月12日 次年度活動計画につき意見交換 全員
俳句にみる虫観 遊磨
2月2日 溝口健二と西鶴 宇佐美
『難波鉦』梅之部三 花兄〜蚊遣火 遠藤
2月16日 医学教育における見えない言葉 東郷
『色道大鏡』学事始—道元と親鸞の開いたもの— 荒牧
3月2日 人と生命のとらえ方を考える 加藤
ヴァレリーにおける「反復」の問題 森本
3月9日 安定社会の不安定な字書—安藤昌益の字書を読む 小林
酒屋唄における身体性の問題について—仕事唄としての酒屋唄の再興

茂手木

明治維新期の社会と情報

班長 佐々木克

本研究は、明治維新という変革期における〈情報〉にかかわる諸問題を総合的に検討してみることが意図して研究を進めてきた。言い方を変えれば、〈情報〉をキイ・ワードに明治維新期の諸問題を読み解いてみようという試みである。研究会における班員の研究報告は2003年3月で終了し、2003年8月末までに論文を執筆、2004年3月に報告書を出版する予定である。

班員 落合弘樹 高木博志 高階絵里加（以上所内） 永井和（文学研究科） 青山忠正（佛教大） 奥村弘（神戸大） 長志珠絵（神戸市外大） 小股憲明（大阪女子大） 勝部真人（広島大） 岸本覚（鳥取大） 小林丈広（京都市歴史資料館） 斎藤祐司（彦根城博物館） 鈴木栄樹（京都薬大） 鈴木祥二（名古屋大） 谷山正道（天理大） 塚本明（三重大）

原田敬一（佛教大） 福井純子（立命館大） 三澤純（熊本大） 母利美和（彦根城博物館） 藪田貫（関西大） 山崎有恒（立命館大） 笹部昌利（佛教大・非） 黒田信二（広島大・院） 谷川穰（京都大・院） 松延真介（佛教大・院）

- 2月1日 『平安通誌』編纂と湯本文彦 小林
2月22日 散髪令考 三澤
3月15日 甲午農民戦争・東学農民戦争から明治維新へ 井上
4月17日 デンマークの黒船 — 1846年ビレ提督の浦賀訪問 — 長島
5月31日 明治維新について — 19世紀国際社会と徳川政権 — 羽賀
6月14日 近代天皇制と古代文化 — 「国体の精華」としての正倉院・天皇家 — 高木
6月28日 公武一和システムの形成 — 文久3年將軍上洛をめぐる — 青山
9月20日 幕末維新期の“公論”理念とその制度化 鈴木
10月4日 維新期の上賀茂神社と社家 落合
10月18日 京・大坂よりの情報と大名家の政治動向 — 元治元年の鳥取池田家を素材に — 笹部
11月15日 元治国会会議（参議会議）と諸侯 佐々木
12月20日 書評：飛鳥井雅道『近代日本精神史の研究』 羽賀

フェティシズム研究の射程 班長 田中雅一
本研究班は、モノとそれに関わる人との関係をテーマとする研究会である。アプローチは宗教学、経済学、歴史学、精神分析、性科学、フェミニズム研究、物質文化論など多岐にわたるが、3年目は、民族誌的な報告に加え、精神分析からの報告とセクシュアリティについての報告が、とくに特徴的であった。

班員 大浦康介 菊地暁 小牧幸代 阪上孝 高木博志 竹沢泰子 田中祐理子（以上所内） 中谷文美（人文研客員助教授・岡山大学） 足立明 田辺明生（以上AA地域研） 速水洋子（東南アジア研） 松田素二（文学研） 荻野美穂 川村邦光 春

日直樹（以上大阪大学） 岡田浩樹 細谷広美（以上神戸大学） 窪田幸子（広島大学） 斎藤光（京都精華大学） 佐伯順子（同志社大学） 崎山政毅（立命館大学） 箭内匡（天理大学） 宇城輝人（福井県立大学） 田村公江（龍谷大学） 池亀彩 石井美保 金谷美和 圓田浩二（以上学振特別研究員） 岩谷彩子 川村清志 中谷純江（以上人文研研修員） 後藤正憲（大阪大学大学院人間科学研究科） 藤本純子（大阪大学大学院文学研究科） 小池郁子 佐藤本綿子 佐藤知久 松嶋健 Wendy Lee（以上京都大学大学院人間・環境学研究科）。

- 1月21日 インド史における宗教的シンボルとファルス：ストゥーパ、リング、ジャガンナートをめぐる差異と同一性のイコノグラフィー 田辺
2月18日 精神分析におけるフェティシズム：なぜファルスなのか？ 田村
3月4日 聴く機械について商品語の文化をめぐる予備的考察 宇城
3月18日 精神分析におけるフェティシズム概念の発生と変遷 新宮一成（人間・環境学研究科）
4月15日 これまでの総括 田中雅一・箭内匡
5月20日 主体・身体・物体 田中
6月17日 優しさの国タイへ向かう海外買客：買う身体試論 速見
7月1日 War Time Anthropology in the 20th Century: America, Europe and Japan Prof. Jan van Bremen
7月15日 ネットの中のフェティシズム：端末化する身体と欲望 川村
10月21日 アートの人類学と Alfred Gell, Art and Agency 金谷
11月18日 イスラームにおける象徴資源としての聖遺物：pricelessな「もの」の流通をめぐる 小牧
12月2日 地域博物館の交渉と抵抗：博物館と先住民 窪田
12月16日 宗教学におけるフェティシズム研究の意義と可能性：Materialityの問題を中心に 村上辰雄（国士舘大学研究員）

文化相渉活動の諸相とその担い手 班長 山室信一

本研究班は、複数の社会空間をまたがる文化の出会いと繋がり、そして反発・摩擦などの諸相を分析、そこから地域文化と世界文化の編成の意義を探ることを課題として出発し、文化連関という研究分野と分析枠組みの創出をめざしている。この文化連関学とでもいうべき領域のデザインをいかに描くかを求めて、既存の学問分野や理論がいかなるものであり、また何がフロンティアとしてありうるかについて検討を進めることが当面の課題となる。そのため、班員の専門や研究対象についてその達成と問題点を検討した昨年度の成果を踏まえて、本年度は文化研究の方法論や文化相渉の担い手になる個人や調査機関についてとりあげ、新分野の可能性について議論を重ねた。

また、この共同研究では、文化相渉活動の担い手としての学術調査機関やシンクタンクによって集積された情報を分析していくことも重要な課題として設定しており、東亜研究所の刊行物や旧制高等商業学校の蔵書などに関する基礎的史料の調査と整理も併せて行った。なお、当研究班は今年度をもって終了し、報告書等の作成を進める予定である。

班員 落合弘樹 籠谷直人 菊地暁 坂本優一郎 高木博志 高階絵里加 竹沢泰子 張翔 藤原辰史 山本有造 B・M・Tankha (以上所内) 蘭信三 (留学生センター) 早瀬晋三 (大阪市立大) 加藤雄三 (総合地球環境学研究所) 河原林直人 (籠谷大) 小林啓治 (京都府立大) 田中隆一 (日本学術振興会特別研究員) 鶴見太郎 (京都橘女子大) Michael Jaments (立命館大) モール・亀谷百合佳 (同志社大) 森田良治 (大阪産業大) 大坪加代 (大阪市立大文・院) 酒井一臣 (阪大文・院) 坂部晶子 承志 (以上京大文・院) 本間千景 (仏大文・院) 溝口歩 (神戸大総合科学・院)

- 1月28日 書評：篠原徹編『近代日本の他者像と自画像』 菊地
「帝国史研究の射程」の射程 ―なぜ
「文明国標準」なのか― 酒井
3月11日 華夷と文野 ―『思想課題としてのア
ジア』に関連して― 張
3月25日 旧高商における東アジア関係蔵書の形

成史について 金丸 裕一 (ゲスト)
コメント 吉久 明宏 (ゲスト)

- 4月22日 書評：山室信一『思想課題としてのア
ジア』 山本・蘭・酒井
5月13日 「満洲国民」の創出と「在満朝鮮人問
題」 田中
5月27日 インドの日本学 Tankha
6月24日 京大文学部所蔵『民研本』の由来 ―戦
時中の民族政策と戦後のGHQ文書―
中生 勝美 (ゲスト)
7月8日 「文化連関と移民」に向けて：The
Anthropology of Globalization を読
む 竹沢
明治後期における仏教とナショナリズ
ム Tankha
9月9日 陸羯南の国民国家認識と対外論の関連
呉
空間アジアをめぐる文化装置 山室
9月30日 フィリピン元在留邦人の戦後の慰霊
早瀬
「〈あえのこと〉のこと」その後のこと
―環境と文化のグローバル・ポリ
ティクス― 菊地
10月28日 日本帝国の近代化の跡 ―朝鮮物産共
進会における美術館をめぐる―
金 英順 (ゲスト)
11月11日 有機農法とナチズム 藤原
朝鮮修信使と明治政府 落合
11月25日 台湾引揚者について 河原林
12月12日 「郷土会」再考 鶴見
書評：川崎賢子・原田健一著『岡田桑
三 映像の世紀 グラフィズム・プロ
パガンダ・科学映画』 菊地

ヴェーダ後期の言語と宗教 ―ヴァードゥーラ・ア
ヌアーキアーナの研究― 班長 井狩彌介
本研究の目的は、ヴェーダ後期の祭式解釈文献
(いわゆるブラーフマナ文献)のうち、言語的にも
宗教的にもきわめて興味深く重要な文献である
『ヴァードゥーラ・アヌアーキアーナ』を会読し、
このテキストの言語的特徴とヴェーダ祭式思想史に

おける位置付けを解明することにある。

ヤジールヴェーダの古学派であるヴァードゥーラ派の文献は、研究史上でつとに注目を浴びてきたにもかかわらず、基本資料となる写本の不備のためにその全容の解明が充分に行われないままに現在に至ってきた。近年に班長・井狩が南インドで発見した多数の新写本群に基づいて学界未知の文献を含む重要基本文献の本文批評の作成が現在進行中であり、研究史の新たな書き換えに至る知見が蓄積されつつある。本研究はその一環として、同学派文献のうち国際学界でもっとも要請の大きい本テキストを、インド文献学各分野の研究者を集めて隔週での共同研究を進めている。本年度末で『ヴァードゥーラ・アヌアーキアーナ』第二章アグニホートラ部分の検討がほぼ終わり、その研究成果として、批判テキストと詳細な訳注を施した英訳の作成に取りかかっている。

班員 藤井正人 船山 徹 堂山英次郎（以上所内） 徳永宗雄 赤松明彦 ウェルナー・クノープル（以上文学研究科） 榎本文雄 天野恭子（以上大阪大） 梶原三恵子（京都大・非常勤） 桂紹隆（広島大） 後藤敏文（東北大） 杉田瑞枝（京都大・非常勤） 手嶋英貴（京都精華大） 野田智子（日本学術振興会） 林隆夫（同志社大） 増田良介（大阪外大・非常勤） 村上昌孝（大谷大・非常勤） 八木徹（大阪学院大） 山下勤（京都学院大） 渡瀬信之（東海大） 大島智靖（大阪大文院） 永田啓介（京都大文院）

1960年代の研究

班長 富永茂樹

1960年代は、われわれの生活と意識がそれまでのものから大きく変化した時代であった。しかもその変化は世界的な規模で生じたこと、また生活のさまざまな領域において認められること、さらに日本についていうなら、明治維新や第二次世界大戦後の変化を上回るものであるかもしれないことさえ予想される、そのような変化である。自身がそのいくぶんかを生きた時代、また現在からほど遠くない時代について何ごとかを語り、結論を抜き出すのは決して容易なことではない。だが1960年代をつうじての世界の変貌が、今われわれのいる世界に直接に

つながっているかぎりにおいて、その腑分けを行うことはわれわれ自身を知るうえでぜひとも必要な作業でもある。この共同研究は、以上のような認識に立って、政治史や経済史もさることながら、日常生活から学術や芸術にまでいたる多様な側面での世界の変化に注目して、また1940年代生まれの、いわば60年代を生きた世代から、70年代生まれの、つまりこの時代については語られた記憶しかもない世代までが集まって進めてゆくものである。

班員 籠谷直人 加藤和人 佐々木克 田中祐理子 藤原辰史 山室信一（以上所内） 伊従勉 大澤真幸 葛山泰央（以上人間・環境学研究科） 加藤幹郎 大黒弘慈（以上総合人間学部） 宇城輝人（福井県立大） 遠藤徹（同志社大） 川崎博史（ホロニック） 北垣徹（西南学院大） 斎藤光（京都精華大） 白鳥義彦（神戸大） 鳴海邦碩（大阪大） 成実弘至（京都造形芸術大） 半田章二 疋田正博（以上シー・ディー・アイ） 前川真行（大阪女子大） 松本日之春（京都市芸術大） 光永雅明（神戸市外語大） 森口邦彦（社団法人日本工芸会）

2月1日 分裂病の60年代—転換期の精神医学
北垣

2月22日 〈近代〉の奔流と逆流—60年代の日本精神史（1）
山室

3月15日 理想の時代の果て
大澤

4月19日 文書館の60年代
葛山

5月17日 同時代の雑談 加藤 秀俊（ゲスト）

5月31日 スポーツの60年代—メディア・健康・学校体育
半田

6月7日 60年代と病いの隠喩
田中

6月21日 60年代—分子生物学のロマンティック時代（1）
加藤

7月12日 60年代に東京の画廊はどんな展覧会を開いていたか 小清水漸（ゲスト）

9月6日 1960年代の日本経済：研究史に即して
籠谷

9月27日 《マクルーハン》とは何であったか
富永

10月18日 社会と教育の60年代
前川

11月1日 日本都市計画史における緑地概念の誕生と1960年代（持続する戦前）の環

彙 報

境破壊：日本の都市から緑地が消えた理由	伊従	1月22日	古代メソポタミアの農業生産：国家はどのように維持されたか	前川
11月15日 サラリーマン都市の形成	鳴海	2月12日	国家形成期の濃尾平野	中谷
11月29日 1960年代の花登筐のしごと	川崎	2月12日	メソポタミアの都市化	小泉龍人（早稲田大）
12月6日 「1968年」をめぐる	白鳥	4月9日	合評：宇野『荘園の考古学』（伊藤）	全員
12月20日 「沈黙の春」の騒々しさ	遠藤			
国家形成の比較研究 班長 前川和也		4月23日	古代インドの王権儀礼をめぐる：ヴェーダ儀礼を中心に	井狩
この研究班は、人類史のなかでのもっとも重要な営みのひとつである国家形成の諸問題をあつかっている。班員が専門とする地域は東アジア（日本、中国、韓国）のみならず、西アジア、インド、南米、西ヨーロッパ、オセアニア地域におよび、また班員の専門領域は考古学、人類学、歴史学、言語学、文学の諸分野にわたっている。われわれは、各地の国家形成のプロセスが単一理論によって整合的に理解できるという楽観的な立場とは、はるか遠いところに位置している。他方でわれわれは、国家形成過程の規則性を探ることが不毛な作業だとはけっして考えない。この研究班ではさしあたっては、班員各人がそれぞれの専門地域にかんして、これまで作り上げてきた国家形成の理論あるいはイメージについて、自由闊達に報告し、かつ討論することをめざしてきた。研究班は前半期を終了しつつある。		5月14日	スウェーデンの初期王権と国家形成	角谷
班員 井狩弥介 小南一郎 岡村秀典 堂山英次郎 藤井正人 藤井律之（以上所内） 伊藤惇史 吉井秀夫（以上文学研究科） 田辺明生（AA研究科） 石村智 下垣仁志 橋本英将（以上京都大・文・DC） 宇野隆夫（国際日文研） 角谷英則（津山工繊） 河野一隆（国立九州博物館設立準備室） 桑原久男（天理大・文） 佐藤吉文（総合研究大学院大・文化科学DC、民博） 関雄二（民博） 寺前直人（学術振興会特別研究員） 中谷正和（総合研究大学院大・文化科学DC、日文研） 西江清高（南山大・人文） 菱田哲郎（京都府大・文） 深沢芳樹（奈良文化財研究所） 福永伸哉（大阪大・文） 松本武彦（岡山大・文） 森下章司（大手前大・文） 渡辺信一郎（京都府大・文）		5月28日	弥生時代から古墳時代における複合社会の形成と地域間関係：軍事組織を中心として	寺前
		6月11日	三韓から三国へ：朝鮮半島における古代国家の形成過程をめぐる諸問題から	吉井
		6月25日	初期畿内王権考	下垣
		7月9日	中原王朝の出現とは何であったのか	西江
		9月10日	長江上流域における製塩遺跡の調査 ファルケンハウゼン （カリフォルニア大）	
		9月28日	古代インド・ヴェーダ文献に現れる国家的要素	藤井
		10月8日	西洋造船海運史と国家形成	宇野
		10月22日	先秦時代の供犠	岡村
		11月12日	東アジア墳墓社会の成立	松本
		11月26日	「威信財」の実態：古墳出土鏡の研究から	森下
		12月10日	馬と古代国家	橋本
		日仏文化交渉の研究 班長 宇佐美齊		
		2002年4月から4年間の予定で実施される共同研究である。日本人にとってのフランス文化、フランス人にとっての日本文化、このふたつを問うことから始めて、具体的なヒトとモノの交流を重視しながら考察をすすめている。そのうえで日仏両文化の相互的な交渉がもたらした豊かな創造性とその問題点を浮き彫りにしてみたい。時代区分としては、フランスでいえば第二帝政と第三共和政の時代、日本でいえば幕末維新期から昭和10年代あたりまで		

を想定している。フランスの文学や諸芸術を対象とする研究者のみならず、日欧比較美術史、日本文化史、比較文明史、社会思想史、あるいは宗教史を専門とする研究者にも加わっていただいている。また正規の班員としてではないが、必要に応じて海外からも複数の研究者の協力を得ている。

通常は隔週の月曜日、午後2時から6時までの時間帯に、口頭発表と討議を重ねている。

班員 大浦康介 阪上孝 佐々木克 高木博志 高階絵里加 森本淳生 横山俊夫（以上所内） 吉田城（文学研究科） 松島征（総合人間学部） 柏木隆雄 北村卓 内藤高（以上大阪大） 小山俊輔 三野博司（以上奈良女大） ロベール・デュケンヌ フランソワ・ラショウ（以上フランス国立極東学院） 鶴飼敦子（人間・環境学研究科博士後期課程） 柏木加代子（京都市芸大） 小西嘉幸（大阪市大） 近藤秀樹（大阪教育大・非常勤講師） アンヌ・ゴノン（同志社大） 阪村圭英子（大阪大・文学研究科・PD） 島本浣（京都精華大） ジャック・ジョリー（英知大） 丹治恒次郎（関学大） ピエール・ドゥヴォー（甲南女大） [海外協力者]: イヴ＝マリ・アリユー（トゥールーズ・ルミリエ大学） セシル・サカイ（パリ第7大学）

- 4月22日 中原中也とフランス近代詩 宇佐美
- 5月13日 1880年代、日本からフランスへー東洋とパリの文人たちー 高階
- 5月27日 プルーストとジャポニスム 阪村
- 6月10日 異人愛のかたちーPierre Lotiの場合などー 大浦
- 7月8日 日本における「ヴァレリー問題」森本
- 10月7日 荷風『珊瑚集』（初版本）の構造 北村
- 10月21日 江戸時代のフランス像 小山
- 11月9日 国際社会と「京都らしさ」の形成ー近代古都の文化戦略ー 高木
芥川におけるフランス文学の受容ー資料概観および怪異譚・日本 趣味 吉田
- 11月18日 フランス歌曲と“日本”ー音楽史の狭間に響く音ー 近藤
- 12月2日 芸者 ゴノン
- 12月21日 俳句と連句ー西洋におけるそれらの

受容をめぐるー

松島

領事館警察の研究

班長 水野直樹

近代日本が朝鮮・中国との間に結んだ条約に規定された治外法権は、朝鮮と中国（東北地方＝満洲を含む）に日本の領事館警察なるものを生み出した。朝鮮では1905年の保護条約まで、中国東北地方では満洲国における日本の治外法権が撤廃されるまで、中国では汪兆銘政権期に治外法権が撤廃されるまで、各地の日本領事館に外務省から警察官が派遣され、様々な活動を行なった。在留日本人（後には台湾籍民・朝鮮人を含む）の保護・取締り、情報活動、相手国・欧米外交機関との折衝などである。

本研究は、近代日本と東アジアとの関係を考える上で重要な領事館警察の機構や活動、領事館警察が把握・認識した中国・台湾・朝鮮の民族運動、共産主義運動、労働運動などの動向等々を、日本史・朝鮮史・台湾史・中国史の研究者による共同研究を通じて解明しようとするものである。また、中国・朝鮮側史料、欧米（特に英仏）諸国の史料などを利用して、中国・朝鮮政府の対応、中国人・朝鮮人の認識、欧米諸国の対応などについても検討を加えたいと考えている。

班員 高木博志 石川禎浩 村上衛（以上所内） 永井和（文学研究科） エリック・エッセルストロム（カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校博士候補） 梶居佳弘（立命館大・非） 桂川光正（大阪産業大） 近藤正己（近畿大） 副島昭一（和歌山大） 宗田昌人（文学研究科・院） 田中隆一（学術振興会特別研究員） 鄭根埴（全南大） 廣岡浄進（大阪大・院） 藤永壮（大阪産業大） 松田利彦（日文研） 李ジョンミン（学術振興会外国人特別研究員） 李昇燁（文学研究科・院）

- 4月17日 共同研究「領事館警察の研究」発足に当たって 水野
- 5月15日 領事館警察の概要 副島
- 6月5日 在上海日本総領事館警察部『特高警察に関する事項』についてー在上海日本総領事館警察部の機構・活動ー 水野
- 6月19日 「満洲国」治外法権撤廃（1936・1937

- 年)と朝鮮人民会 — 在満朝鮮人と日本帝国 — 廣岡
- 7月3日 日本の植民地支配と領事館警察についての一考察 エッセルストローム
華南における台湾籍民について 村上
- 9月18日 (書評) 孫科志『上海韓人社会史：1910-1945』(ソウル，図書出版ハヌウル，2001年) 藤永
- 10月16日 『満洲国』初期の『在満大使館警務部』設置問題 — 政党政治と『満洲国』統治 — 田中
- 11月20日 日露戦争期以降における韓国領事館警察・理事庁警察についてのノート 松田
- 12月4日 領事館警察による在韓日本人取締研究 李
- 府の政策参加 — 移民関係機関の設立・拡大過程を素材として — 小都
- 6月28日 「満洲」終戦録
— 引揚・抑留・残留 — 山本
- 7月12日 中国残留婦人の語る世界 山下知子(京大・院)
- 9月13日 満洲移民団の生活とその背景 — 敗戦以前 — 古屋哲夫(名誉教授)
- 9月27日 中国帰国者にとっての『祖国の記憶』と世代 蘭
- 10月11日 書評：櫻井 厚『インタビューの社会学 — ライフストーリーの聞き方』猪股 P. トンプソン 『記憶から歴史へ — オーラル・ヒストリーの世界』 山本
- 10月25日 だれから何を聞き、何を書くか — 『祖国よ』の場合 小川津根子(ゲスト)
- 11月8日 鞍山昭和製鋼所関係者からの聞き取り調査 松本
- 12月13日 満洲開拓公社と開拓団 猪股
- 記憶と歴史 — 満洲縁故者の場合 — 班長 山本有造
- 記憶の歴史化について，個人的記憶と集团的記憶について，オーラル・ヒストリーとライフ・ストーリーについて，広義の歴史学各分野において近年広く関心を集めている。この大きな問題を，引揚体験を中心とする満洲縁故者の場合という具体例に引き付けて考えようとする。
- 日本植民地史，中国現代史，歴史社会学，政治史，各分野の研究者の参加を得て，隔週金曜日に定例研究会を開催している。2年間の研究会ののち，成果を小さな論文集に纏める予定である。
- 班員 藤原辰史 山室信一(以上所内) 蘭信三(留学生センター) 西村成雄(大阪外大) 松本俊郎(岡山・経) 猪股祐介(東大・院) 上田貴子 小都晶子(以上大阪外大・院)
- 4月19日 満洲移民および満洲帰国者関連データベース作成をめぐる動向とその意味 蘭
- 5月10日 「記憶と歴史」をめぐる研究状況 上田
- 5月24日 満洲移民のライフヒストリー研究 — 岐阜県郡上村開拓団を事例として — 猪股
- 6月14日 日本人移民政策に対する「満洲国」政
- 文明と言語 班長 横山俊夫
- 人間社会が安定し，しかもそれが文をなし明らかなる状態に赴くとき，言語が変容しつつ果たす役割は大きい。その諸相を，多様な事例研究を通じて明らかにするとともに，現代の専門細分化による言語の流通力の衰えが社会にもたらしている閉塞状況に對して，その解決の方途を，班員の協同により模索，提言することをめざして発足した。
- 初年度目にあたる本年は，次に記す個別研究報告の他，17世紀の色道書『難波鉦』を輪読，安定閉鎖空間にみられる人間行動と話し言葉の質を多方面から検討した。また，7月には，京都大学教育研究振興財団ならびに財団法人人文科学研究協会の支援を得て，大学院地球環境学三才学林にて，科学術語をめぐる国際シンポジウムを行った。成果報告は『京都大学人文科学研究所共同研究資料叢刊』第7巻に英文でまとめ，12月末に刊行した。
- 班員 宇佐美齊 加藤和人 金文京 古勝隆一 小林博行 武田時昌 田中祐理子 森本淳生(以上所内) 山極壽一(理学研究科) 遊磨正秀(生態学

研究センター) (以上学内) 荒牧典俊 (大谷大学)
遠藤彰 (立命館大学) 岡田暁生 (神戸大学) 後藤
静夫 (国立文楽劇場) 廣瀬千紗子 (同志社女子大
学) 深澤一幸 (大阪大学)

5月11日 文明の語をめぐる 横山
『難波鉦』梅之部三 類火〜木枯

深澤

5月25日 1930年代日本における科学用語検討
の試みについて 小林

『難波鉦』梅之部三 文塚〜夕紅

後藤

6月8日 生態学がかかえる言語問題 遠藤
『難波鉦』梅之部三 後朝〜和合

森本

6月22日 中国の書簡文 — 『杜家立成』を例と
して 金

『難波鉦』梅之部四 張落〜逆櫓

遊磨

7月4〜6日 現代科学術語の再構築: ソウル/
京都シンポジウム 第1楽章 (The
Kyoto/Seoul Symposium on Lin-
guistic Challenges in the Modern
Sciences: First Movement) 於 三
才学林,

ソウル大学校科学史科学哲学協同過程,
京大大学院地球環境学堂と共催

企画: 金永植教授 (ソウル大) 横山,

出席: 班員7名

7月13日 話す力と書く力
— 魏晋の人々の場合 — 古勝

『難波鉦』梅之部四 閻空焼〜馴子

廣瀬

10月5日 書言字考と男節用 — カクシドコロは
〈雅な〉字で 横山

『難波鉦』梅之部四 五常〜野槌

小林

10月19日 ことばの虚実とものまね 廣瀬
『難波鉦』梅之部四 五障〜罪障山

古勝

11月2日 〈文明〉と〈ことば〉から見る〈現代
医学〉という主題 田中

道元と親鸞のひらいたもの — 「室町
ごろ」から「江戸ごろ」へ 荒牧

11月23日 見学会: 文部科学省科学研究費特定領
域研究ゲノム4領域主催

「ゲノムひろば」京都会場 同 トーク
セッション「ゲノム談義」

企画出演: 加藤

11月30日 1917年中国再探 — 復辟派を考える

深澤

『難波鉦』梅之部四 生死海〜法界各

遠藤

12月7日 ショック・ノスタルジー・凌駕 —
ヴィルトゥオーソの音楽言語 岡田

『難波鉦』梅之部四 遊男〜伽咄 金

東方学研究部

中国美術の図像学

班長 曾布川寛

古代、中世の美術において表現されたものは全て
象徴的意味内容を有しており、それが何を表してい
るかを知らずして作品の理解はあり得ない。作
品の背景には神話伝説、宗教的義軌、社会的情况な
どがあり、それらを踏まえて理解することが要求さ
れる。我々は中国の古代、中世美術を取り上げるに
当たり、図像学の見地から考察を試みる。主たる対
象は考古学的出土文物と、石窟寺院などの仏教美術
であり、中国のみならず、インド、朝鮮、日本を含
めて考察する。班員及びゲストスピーカーによる研
究発表のほか、『鉄網珊瑚』画品を取り上げ、会談
を行った。

訳経僧伝研究

班長 桑山正進

インドや中央アジアからやってきて、經典漢訳に
参画した訳経僧の伝記を、歴史、言語、宗教、美術
など多角的視点から読解検討する本研究班は、当初
の目標であった『高僧伝』の会談を一応終えたが、
会談の過程で得られた新たな情報、知見は膨大であ
り、訳注作成に向けてそれらを整理、再検討する作
業を継続していった。

またこれに関連して、3月には、南アジア、中央
アジア考古学の専門家であるナポリ国立東洋大学教授

ジョヴァンニ・ヴェラルディ氏を迎え、研究懇話会を開催した。なお、本研究班は2001年度末をもって予定の年限を迎え、終了した。

十六・十七世紀アジアにおける言語接触

班長 高田時雄

本研究班ではポルトガル勢力のアジア東漸を契機として起こった言語接触の諸相を、ジェズイットを初めとするカトリック諸会派の資料を中心として説明することを目指し、その一つの手がかりとしてマニラのドミニコ会が1593年に刊行したタガログ語版ドトリナの会読を行ってきた。班員の専門分野である言語・文学・歴史・宗教などの多角的視点をもって読解・討議を行い、抛るべき現代語訳（日本語および英語）と詳細な注を作成した。研究成果は近く報告書として公開する予定である。

王玄策研究

班長 高田時雄

王玄策は唐の太宗から高宗の時代にかけて、数度にわたり正使あるいは副使としてインドに赴き、中印文化交流史に足跡を残した。その著とされる『中天竺国行記』は現在では散佚して、『法苑珠林』『諸経要集』『釈迦方誌』などに断片的な記載が見られるのみである。本研究班では、王玄策の使節に関する文献資料を集成し、読み解くことによって、当時の中国からインドにわたる地域の歴史・宗教・言語・文化などの情報を引き出すことを目的とする。当面は、近年の研究である馮承鈞「王玄策事輯」（同『西域南海史地考証論著彙輯』所載）の会読をすすめ、それを手がかりに新たな資料の発掘を目指す。隔週の月曜日に漢字情報研究センター会議室で開催。

中国技術の伝統

班長 田中 淡

「中国技術史の研究」に引き続いて、1996年から、中国技術の伝統と特質について検討を加えている。基本的には生活科学技術を中心とするが、しかし前研究班の過程で靡げながらみえてきた中国技術史における研究課題は、特定の時代、分野に偏重しない。一般的には、技術と科学の相関、技術者と社会、生活科学の特質、少数民族の技術、等々の主題に関わ

るであろうし、個別的には、農業、医学、土木建築、紡績、数学、天文学、化学、その他の領域に拡がることが予測される。班員共通の会読テキストとしては、引き続いて元・王禎の『農書』農器図譜の訳注作成をすすめてきたが、今年末までにすでに当初の予定をはば了えた。これと並行して、技術史の諸分野にわたる班員の研究発表を随時おこなってきた。

中国文明の形成

班長 小南一郎

本年も、王国維「観堂集林」の会読を続け、主として詩経に関する論文を読んで、訳注を作った。詩経について、王国維は、それを楽曲として理解し、その演奏形態を復元しようとしている。こうした研究方法は、それ以後、十分には展開されていないように見える。

三国時代の出土文字資料

班長 井波陵一
富谷 至

本研究班では、前年度に引き続き、本研究所所蔵の魏晋時代の文字拓本の会読を継続し、HP上での公開に向けて、釈文・典故等の検討を行った。その成果の一端として、11月30日に公開シンポジウム「石刻が語る三国時代」を開催し、あわせて関連拓本を展示した。

また、拓本会読と並行して、釈文が公開された張家山漢簡・二年律令の訳注公表に向けて会読を開始した。雲夢睡虎地秦簡をはじめとする各種法制史資料を比較・検討しつつ、語義等を確定すべく毎回活発な討論がかわされた。

なお、当研究班で会読している拓本は、本研究所付属、漢字情報研究センター HP において公開されている。

* 石刻拓本資料

<http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db/takuhon>

中国近代化の動態構造

班長 森 時彦

近代における中国文明と西洋文明の接触が中国の社会構造にいかなる変動をもたらしたかという問題を、政治・経済・文化などさまざまな専門分野から多角的に考察することが、このプロジェクトの課題である。本年は本研究班の最終年度に当たり、報告

書作成を視野に入れつつ、思想史及び社会経済史関係の報告を中心に、政治史・外交史を含む幅広い分野の意欲的な報告が行われた。報告の対象とする時代も19世紀前半から20世紀半ばまでの一世紀余りに及び、特定の時代に偏らない活発な議論が展開された。

漢字情報基礎論の試み

班長 武田時昌

本研究会は、パソコンが普及し、書物の電子テキスト化やインターネットによる交信といった情報の形態の変容が急速に進む時代状況に即応し、中国学研究的の学問的環境を新たに整備するために、コンピュータ上での漢字情報のあり方について、中国学と情報学の双方の専門的な立場から検討を加えている。本年は、漢字情報研究センターのスタッフが中心となって推進している諸プロジェクト（全国漢籍データベース、CHISE（CHaracter Information Service Environment）プロジェクト等）及びコンピュータを活用した中国学研究の諸問題に関する研究発表を行い、方法論、技術あるいは教育といった多方面からの検討を加えた。また、訳注等の多様な情報を内包する電子テキストの作成に最も注目されるマークアップ技法の学習会を設け、ウィットレル氏を講師としてパソコン実習を行った。

中国近世社会の秩序形成

班長 岩井茂樹

三年目を迎えた共同研究班は、班員それぞれの関心から秩序形成にかかわる研究報告を積み重ねている。本年は、官制や編纂など政治社会制度にかかわる問題、朝貢や貿易など外交経済制度にかかわる問題にも目が向けられた。制度の生成と運用の過程を分析することは、その時代の人々が懐いていた秩序の認識と、あるべき秩序についての理念とのあいだの距離を測定することを可能にする。現実の秩序についての認識と理念にもとづいて制度が創りだされると同時に、行われた制度が人々の行動を規制する要素としてはたらく。こうした相互作用をくり返すなかで、現実の秩序は安定と動揺、そして再編のリズムを刻むわけである。このように秩序形成の一要素として制度を捉えることによって、規定や枠組みの変遷にとどまらず、制度と社会との相互作用のな

かで制度の創出と変化の意味を理解することが可能となる。

元代の社会と文化

班長 金 文京

前年度にひきつづき本年度も『事林広記』と『元刊雜劇三十種』の読解、訳注作成を並行しておこなった。

三教交渉の研究

班長 麥谷邦夫

本研究班では、元劉大彬編の『茅山志』録金石篇の会読を進めている。『茅山志』録金石篇には、六朝から元にかけての茅山関係の碑文の類が集成されている。特に唐以降の碑文は三教交渉の中での茅山道教の位置を解明するうえで極めて重要な資料を含み、この会読を通じて多くの知見が得られるものと期待される。今年度は、卷二十三「道門威儀玄博大師貞素先生王君碑」までを読了した。

客員研究部

『帰真総義』の研究

班長 濱田正美

漢語で記されたイスラーム文献は、中国学からもイスラーム学の側からも長らく等閑に付されてきた感があるが、近年その研究は急速に進展し始めた。本研究班は、明末の南京に滞在したインド出身のスーパーの口述を、その弟子の張中なる人物が筆録した『帰真総義』の読解を通じて、「漢語によって言表されたイスラーム神秘主義思想」を解明することを目的とする。今年は、佐藤実、濱田正美、稲葉穰、中西竜也、今松泰、岩井茂樹が訳と注釈を準備の上、会読を行い、テキスト全文を読了した。今後は報告書の作成に向けて訳文と注釈を整理し、テキストに引用されているペルシア語文献の比定など、検討を要する課題に取り組む予定である。

Ⅱ 個人研究

人文学研究部

知識と社会制度

阪上 孝

彙 報

「日本植民地帝国」の経済史的研究	山本 有造	近代中国の財政と社会	岩井 茂樹
19 世紀における明治維新	佐々木 克	先秦時代の金文	浅原 達郎
古代インド・ヴェーダ祭式の構造と		古代中国の考古学研究	岡村 秀典
歴史的展開の研究	井狩 彌介	川西走廊の漢藏諸語の記述言語学的研究	
シュメール行政・経済文書の研究	前川 和也		池田 巧
フランスの詩学	宇佐美 齊	インド・中国における仏教の学術と実践	
前近代日本の文明史的研究	横山 俊夫		船山 徹
近代東アジアにおける日本の法と政治	山室 信一	文字コード理論	安岡 孝一
フランス革命と近代的主体の成立	富永 茂樹	中国芸術理論研究	宇佐美文理
近代朝鮮の政治と社会	水野 直樹	イスラーム東漸史の研究	稲葉 穂
在日米軍を中心とする軍事共同体の人類学的研究		仏教研究知識ベース — 禅仏教を例として	
	田中 雅一	ウィッテルン, クリスティアン	
文学理論の研究	大浦 康介	中国共産党史の研究	石川 禎浩
ヴェーダ文献の生成と伝承の研究	藤井 正人	秦漢時代の制度史	宮宅 潔
戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク	籠谷 直人	ムガル朝時代の歴史叙述の研究	真下 裕之
近代天皇制の文化史的研究	高木 博志	中国隋唐期における疾病認識 — 『諸病源候論』を	
人種・エスニシティ論	竹沢 泰子	軸に —	東郷 俊宏
近代日本の芸術と西洋	高階絵里加	魏晋南北朝時代の注釈学	古勝 隆一
現代社会における生物学・生命科学	加藤 和人	中国近世の国家支配の研究	古松 崇志
士族の研究	落合 弘樹	文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究	
ポール・ヴァレリーと 20 世紀の思想	森本 淳生		守岡 知彦
江戸時代天文暦学の文化史的研究	小林 博行	客家語およびその周辺言語の記述研究	中西 裕樹
南アジア・ムスリム社会の社会構造	小牧 幸代	中国仏教絵画の研究	大原 嘉豊
近代日本民俗誌システムの研究	菊地 暁	中国古代中世の官制史	藤井 律之
近世ヨーロッパの国際金融研究	坂本優一郎	モンゴル時代の文化政策と出版活動	宮 紀子
古インド・イラン語の研究	堂山英次郎	近代華南沿海地域の社会経済変動についての研究	
近代西洋医学発展史研究および身体論	田中祐理子		村上 衛
ナチス・ドイツの農業政策	藤原 辰史	中国魏晋南北朝志怪の成立背景	佐野 誠子

東方学研究部

中国古代の伝承文化研究	小南 一郎
中国美術の様式と意味	曾布川 寛
中国建築の様式・技法・空間	田中 淡
近代中国の綿紡織業	森 時彦
道教思想研究	麥谷 邦夫
敦煌写本の言語史的研究	高田 時雄
中国古代中世の法制	富谷 至
中国の小説、演劇及び説唱文学の歴史	金 文京
清代の文化と社会	井波 陵一
中国科学の思想史的考察	武田 時昌

事業概況

夏期公開講座

〈生活の中の植民地主義〉

2002 年 7 月	於 本館大会議室
5 日	朝鮮人の名前と植民地支配
	水野 直樹
	植民地支配・身体規律・健康
	韓国・全南大学 鄭 根植
6 日	植民地における神社参拝
	本学教育学部 駒込 武

台湾先住民と日本語教育 — 阿里山ツ
オウ族の戦前・戦後 —
兵庫教育大学 松田 吉郎

開所 73 周年記念公開講演会

2002年11月7日 於 本館大会議室
元代江南の禅宗と日本五山 — 「勅修
百丈清規」の成立と流伝 —
古松 崇志
漢字コードの誕生 安岡 孝一
中原中也とランボー 宇佐美 齊

漢字情報研究センター講習会

・2002年度漢籍担当職員講習会（初級）

第1日（10月7日）
漢籍について
名古屋大学文学研究科教授 井上 進
漢籍目録の構造－漢籍整理の基礎 宇佐美文理
目録検索とデータベース検索 安岡孝一
漢籍目録を読む（経部） 井波陵一
第2日（10月8日）
カードの取り方－漢籍整理の実践 梶浦 晋
漢籍目録を読む（史部） 井波陵一
漢籍目録カード作成実習

第3日（10月9日）

コンピュータと漢籍

ウィッテルン、クリスティアン

漢籍データベースについて 安岡孝一
漢籍目録を読む（子部） 井波陵一
漢籍データ入力実習（1）

第4日（10月10日）

工具書について 古勝隆一
漢籍目録を読む（集部） 井波陵一
漢籍データ入力実習（2）

第5日（10月11日）

NACSIS-CAT と漢籍データベース
国立情報学研究所教授 宮澤 彰
実習解説 梶浦 晋

・2002年度漢籍担当職員講習会（中級）

第1日（11月11日）

中国目録学史（1）

時代情況と出版傾向

文学研究科教授 平田昌司

叢書－漢籍分類の特色

安岡孝一

梶浦 晋

井波陵一

分類上の問題点（経部）

第2日（11月12日）

中国目録学史（2）

中国の地方志について

文学研究科助教授 中砂明德

分類上の問題点（史部）

井波陵一

漢籍データ入力実習（1）

第3日（11月13日）

中国目録学史（3）

和刻本漢籍について

鹿児島大学法文学部教授 高津 孝

分類上の問題点（子部）

井波陵一

漢籍データ入力実習（2）

第4日（11月14日）

『東洋学文献類目』について

守岡知彦

村田康彦

分類上の問題点（集部）

井波陵一

漢籍データ入力実習（3）

第5日（11月15日）

現代中国書について

石川禎浩

実習解説

梶浦 晋

所 員 動 静

- ・ 柴山正進（東方学研究部）教授は定年により退職（3月31日付）。
- ・ 木島史雄（東方学研究部）助手は辞任の上（3月31日付）、愛知大学現代中国学部助教授に就任。
- ・ 北垣徹（人文学研究部）助手は辞任の上（3月31日付）、西南学院大学文学部講師に就任。
- ・ 横山俊夫（人文学研究部）教授は大学院地球環境学堂教授に配置換（4月1日付）。
- ・ 濱田正美神戸大学文学部教授は、併任教授（文化研究創成研究部門、4月1日～2003年3月31日）。
- ・ 中谷文美岡山大学文学部助教授は、併任助教授

- (文化研究創成研究部門、4月1日～2003年3月31日)。
- ・浅原達郎(東方学研究部)助教授は当研究所(東方学研究部)教授に昇任(4月1日付)。
 - ・森賀一恵(附属漢字情報研究センター)助手は富山大学人文学部助教授に昇任(10月1日付)。
 - ・宮宅潔氏を助教授(東方学研究部)に採用(10月1日付)。
 - ・佐野誠子氏を助手(東方学研究部)に採用(10月1日付)。
 - ・藤原辰史氏を助手(人文学研究部)に採用(11月1日付)。
 - ・池田巧助教授(東方学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、2001年12月22日大阪発、香港城市大学及び西南民族学院に於いてシャンシュン語に関する資料収集・調査及び研究打合せを行い、1月6日帰国。
 - ・麥谷邦夫教授(東方学研究部)は、1月9日大阪発、国立シンガポール大学に於いて「孝—中国の伝統における孝の本質と実践」国際会議に出席・研究報告を行い、1月13日帰国。
 - ・山本有造教授(人文学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、1月12日大阪発、南京農業大学、中国第二歴史档案馆及び復旦大学に於いて戦前期中国農業統計データに関する資料調査・収集及び研究打合せを行い、1月20日帰国。
 - ・ウィッテルン、クリスティアン助教授(附属漢字情報研究センター)は、1月10日大阪発、キングスカレッジ(連合王国)に於いてTEI外字問題委員会に出席、中華佛学研究所(台湾)に於いて第四回中華国際佛学会議に出席し、1月21日帰国。
 - ・高田時雄教授(東方学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、1月22日大阪発、中国国家図書館に於いて新旧キリスト教ミッション出版活動の研究に関する資料収集を行い、1月26日帰国。
 - ・田中雅一助教授(人文学研究部)は、1月24日大阪発、国立シンガポール大学に於いて宗教事情についての文献調査を行い、1月31日帰国。
 - ・藤井律之助手(東方学研究部)は、文部科学省在

- 外研究員旅費により、1月28日大阪発、大英図書館(連合王国)に於いて敦煌漢簡及び敦煌出土文字資料調査を行い、2月3日帰国。
- ・加藤和人助教授(人文学研究部)は、文部科学省科学技術振興調整費により、2月3日大阪発、カナダ保健省、ケベック州科学技術倫理委員会(カナダ)、インディアナ大学及び国家科学技術評議会(アメリカ合衆国)に於いて、生命倫理に対する取り組みの現状調査を行い、2月10日帰国。
 - ・真下裕之助手(東方学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、2月4日大阪発、国立図書館(フランス)に於いて、「インド・イスラーム史に関するベルシャ語文献の諸写本の研究」に関する文献調査及び資料収集を行い、2月16日帰国。
 - ・高田時雄教授(東方学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、2月19日大阪発、台湾国家図書館に於いて敦煌写本調査を行い、2月23日帰国。
 - ・金文京教授(東方学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、2月20日大阪発、ソウル大学校及び高麗大学校図書館に於いて朝鮮版漢籍の調査を行い、2月24日帰国。
 - ・加藤和人助教授(人文学研究部)は、文部科学省科学技術振興調整費により、2月20日大阪発、ナフィールド・カウンシル及び保健省(連合王国)、ドイツ科学技術倫理委員会に於いて生命倫理への取り組みに関する調査研究を行い、3月1日帰国。
 - ・藤井正人助教授(人文学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、2月22日大阪発、ケーララ州パニヤール村近郊、トリヴェンドラム及びティルネルヴェリ市内(インド)に於いて、ヴェーダ伝承の現地調査を行い、3月12日帰国。
 - ・加藤和人助教授(人文学研究部)は、文部科学省科学技術振興調整費により、3月9日大阪発、オーストラリア国家保健医学カウンシル及びオーストラリア法制検討委員会に於いて生命倫理全般の取り組み及び生命倫理・医療倫理に関する規制等の現状に関する調査研究を行い、3月13日帰国。

- ・井狩彌介教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月22日大阪発、イリソジャララダ市郊外、ティルチラバリ近郊及びタンジャブール近郊の伝承家系、トリヴァンドラム市・大学写本図書館、マドラス市内写本図書館（インド）に於いてヴェーダ現存伝承と写本の調査を行い、3月15日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月12日大阪発、台湾中央研究院歴史語言研究所に於いて俗曲文献調査を行い、3月15日帰国。
- ・小牧幸代助手（人文学研究部）は、2月16日大阪発、ジャーマ・マスジド、ニザームッディーン廟、タブリーギー・ジャマアト、デーオバンド学院及びジャーマアテ・イスラーミー（インド）に於いて、海外における宗教事情の調査を行い、3月16日帰国。
- ・竹沢泰子助教授（人文学研究部）は文部科学省科学研究費補助金により、3月9日成田発、ワシントン DC アメリカ人類学会事務局に於いて国際人類学民族会議打合せ、カリフォルニア大学バークレー校に於いて「日本～内なる境界を越えて」に関する国際シンポジウムに参加・発表を行い、3月18日帰国。
- ・籠谷直人助教授（人文学研究部）は、文部科学省在外研究員旅費により、2001年9月27日大阪発、ロンドン大学に於いて1930年代の日英関係史に関する研究を行い、3月26日帰国。
- ・田中雅一助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月23日大阪発、メルボルン大学、オーストラリア大学及びシドニー大学に於いて文化人類学関係の教育についての資料収集を行い、3月31日帰国。
- ・村上衛助手（東方学研究部）は、3月17日大阪発、故宮博物館（台湾）に於いて清代档の収集、シンガポール大学に於いて「市場、社会と国家の間での錯綜」国際研討会に出席、シンガポール国立古文書館に於いて植民地期華僑関係の史料収集を行い、4月9日帰国。
- ・石川禎浩助教授（東方学研究部）は、2001年9月28日大阪発、アメリカ高等研究所に於いて近代日中関係史の調査・研究を行い、4月10日帰国。
- ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、4月13日大阪発、復旦大学に於いてヒトゲノム研究の倫理に関するパブリック・フォーラムに出席、上海国際会議場に於いて国際ヒトゲノム機構年会に出席及び発表を行い、4月18日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、5月1日大阪発、延世大学に於いて第1回韓国語中文学国際学術発表会に出席、司会及び発表を行い、5月5日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、4月28日大阪発、上海復旦大学に於いて国際シンポジウム「日本の戦後思潮と中日関係」に出席、第二檔案館（中華人民共和国）及び上海市図書館に於いて史料調査を行い、5月9日帰国。
- ・小牧幸代助手（人文学研究部）は、5月1日大阪発、ジャーマ・ミッリヤ・イスラーミヤ大学、デーオバンド学院、デリー・ワクフ委員会及び中央ワクフ評議会（インド）に於いてワクフ法に関する情報収集、学院の施設のワクフ申請・承認の経緯及び州・中央政府との関係に関する調査、ワクフ法の制定・改訂の経緯及びワクフ申請・承認手続きとその実態に関する調査を行い、5月15日帰国。
- ・小南一郎教授（東方学研究部）は、5月27日大阪発、香港浸会大学に於いて、「唐代文学と宗教」シンポジウムに出席し、5月31日帰国。
- ・堂山英次郎助手（人文学研究部）は、5月28日大阪発、ライデン大学（オランダ）に於いて第3回国際ヴェーダ学ワークショップに出席及び資料収集を行い、6月5日帰国。
- ・藤井正人助教授（人文学研究部）は、5月29日大阪発、ライデン大学（オランダ）に於いて第3回国際ヴェーダ学ワークショップに出席及び研究打合せを行い、6月5日帰国。
- ・井狩彌介教授（人文学研究部）は、5月29日大阪発、ライデン大学（オランダ）に於いて第3回国際ヴェーダ学ワークショップに出席及び資料調

- 査を行い、6月6日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、6月3日大阪発、北京外語学院に於いて講義・公開講演及び史料調査を行い、6月10日帰国。
 - ・富谷至教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、6月10日大阪発、ライデン大学（オランダ）ロンドン大学及びストックホルム大学に於いて「死刑の諸問題」に関する研究打合せを行い、6月21日帰国。
 - ・竹沢泰子助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、6月14日成田発、ミシガン大学及びワシントン大学に於いて国際人類学民族学会議の打合せ及び人類学者との情報交換を行い、6月22日帰国。
 - ・田中祐理子助手（人文学研究部）は、6月19日大阪発、ブリュネル大学（連合王国）に於いて国際シンポジウム「人々の健康と人類学」に出席及び研究打合せ、ロンドン大学図書館に於いて資料収集を行い、6月25日帰国。
 - ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、6月23日大阪発、浙江大学（中華人民共和国）に於いて中華人文科学学術研討会に出席及び発表、上海図書館に於いて明代小説資料調査を行い、6月28日帰国。
 - ・宮紀子助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、6月30日大阪発、国家図書館、故宮博物院及び中央研究院傅斯年図書館（台湾）に於いて元刊本の調査及び元代漢籍の資料収集を行い、7月9日帰国。
 - ・木博志助教授（人文学研究部）は、7月7日大阪発、シンガポール国立大学に於いて日本におけるモニュメントと記憶形成についての国際会議に出席及び報告を行い、7月12日帰国。
 - ・村上衛助手（東方学研究部）は、7月8日大阪発、中国第一歴史档案館に於いて清代の档案収集を行い、7月25日帰国。
 - ・宇佐美齊教授（人文学研究部）は、7月15日大阪発、パリ第七大学及びギメ美術館（フランス）に於いて日仏文化交渉にかかわる研究打合せ及び関連資料調査を行い、7月27日帰国。
 - ・籠谷直人助教授（人文学研究部）は、7月18日大阪発、ブエノスアイレス・ヒルトンホテルに於いて第13回国際経済史学会に出席及び報告を行い、7月28日帰国。
 - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、7月20日大阪発、中国国家図書館に於いて敦煌学研究史に関する打合せ及び資料収集を行い、7月29日帰国。
 - ・石川禎浩助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、7月14日大阪発、プリンストン大学、プリンストン高等研究所に於いて中国近代史に関する資料調査、ペンシルバニア大学に於いて中国革命史に関するワークショップに出席及び中国近代史に関する資料調査、国立公文書館及びジョージタウン大学（アメリカ合衆国）に於いて中国共産主義運動に関する資料調査、コロンビア大学に於いて国際共産主義運動史研究に関する研究打合せを行い、8月2日帰国。
 - ・山本有造教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月1日大阪発、中国農業部に於いてロッシング・バック資料調査及び中国第二档案館における調査の為の事前打合せを行い、8月4日帰国。
 - ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、7月16日大阪発、中華佛学研究所及び中央研究院（台湾）に於いて研究打合せ、チュービンゲン大学（ドイツ）に於いてACH/ALLC 2002年度共同年会とTEI文字問題WG会議に出席し、総合佛教大辞典のドイツ語訳プロジェクトの打合せを行い、8月6日帰国。
 - ・曾布川寛教授（東方学研究部）は、7月18日大阪発、中国四川省文物考古研究所及び四川省博物館に於いて南伝佛教美術の調査、上海博物館に於いて所蔵文物の調査を行い、8月12日帰国。
 - ・中西裕樹助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月6日大阪発、海豊県県誌弁公室（中華人民共和国）に於いてショオ語の調査及び資料収集を行い、8月24日帰国。
 - ・森時彦教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、8月18日大阪発、中国社会科学院近代史研究所に於いて中華民国史国際学術討論会に参加・学術講演及び

研究打合せを行い、8月24日帰国。

- ・安岡孝一助教授（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月20日大阪発、台湾国家図書館に於いて古籍聯合目録資料庫合作建置研討会に出席及び新旧キリスト教出版活動に関する資料収集を行い、8月25日帰国。
- ・大浦康介助教授（人文学研究部）は、7月14日大阪発、フランス国立図書館に於いて日仏文化交渉の研究及び文学理論の研究のための資料収集を行い、8月26日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は、委任経理金により、8月18日大阪発、古浪長城、武威博物館、酒泉博物館、丁家閘、敦煌莫高窟、敦煌博物館等（中華人民共和国）に於いて漢代長城・古墓調査及び漢代烽燧遺址調査、甘肅省考古研究所（中華人民共和国）に於いて漢代木簡調査を行い、8月28日帰国。
- ・古勝隆一助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月18日大阪発、古浪長城、武威博物館、酒泉博物館、丁家閘、敦煌莫高窟、敦煌博物館等（中華人民共和国）に於いて漢代長城・古墓調査及び漢代烽燧遺址調査、甘肅省考古研究所（中華人民共和国）に於いて漢代木簡調査を行い、8月28日帰国。
- ・藤井律之助手（東方学研究部）は、8月18日大阪発、古浪長城、武威博物館、酒泉博物館、丁家閘、敦煌莫高窟、敦煌博物館等（中華人民共和国）に於いて漢代長城・古墓調査及び漢代烽燧遺址調査、甘肅省考古研究所（中華人民共和国）に於いて漢代木簡調査を行い、8月28日帰国。
- ・東郷俊宏助手（東方学研究部）は、8月19日大阪発、上海交通大学に於いて第10回国際東アジア科学・技術・医学史学会に出席、北京中医研究院に於いてチベット医学史関連図書翻訳の打合せを行い、8月29日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、8月20日大阪発、台湾国家図書館に於いて古籍聯合目録資料庫合作建置研討会に出席及び新旧キリスト教出版活動に関する資料収集を行い、北京理工大学に於いて敦煌学学術史国際研討会に出席、中

国国家図書館に於いて南欧所蔵中国学資料にかかわる調査研究を行い、8月29日帰国。

- ・大原嘉豊助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月22日大阪発、中国歴史博物館及び故宮博物院に於いて中国仏教美術資料調査、岩山寺、崇福寺、仏光寺、南禅寺、大雲院及び開化寺（中華人民共和国）に於いて寺觀壁画調査、鞏県石窟及び龍門石窟（中華人民共和国）に於いて石窟彫刻調査を行い、9月3日帰国。
- ・稲葉穰助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月20日大阪発、国立東洋学研究所（ウズベキスタン）に於いて収蔵資料調査及び収集、イチャン・カラ博物館及びサマルカンド大学（ウズベキスタン）に於いて初期イスラーム時代遺物・遺跡の調査、タシュケントに於いて資料調査及び収集を行い、9月10日帰国。
- ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、9月2日大阪発、ホテル・オムニ（カナダ）に於いて国際ヒトゲノム機構・倫理委員会、第3回国際DNA サンプルング会議に出席、ゲノム研究の歴史と社会の相互作用に関する調査研究を行い、9月10日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月2日大阪発、山西大学（中華人民共和国）に於いて中国北方民族建立的王朝与中国文学の発展国際研討会に参加・論文発表、北京図書館に於いて元代文学関係資料調査を行い、9月14日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、9月7日大阪発、Berlin-Brandenburg Academy of Sciences（ドイツ）に於いて学会に出席及び新旧キリスト教の東アジアにおける出版活動に関する調査を行い、澳門中央図書館に於いて第3次中文文献資源共建共享合作会議に出席及び資料収集を行い、9月19日帰国。
- ・森時彦教授（東方学研究部）は、委任経理金（一部先方負担）により、9月10日大阪発、南開大学（中華人民共和国）に於いて学術講演、天津、新河県及び青島に於いて綿業調査研究を行い、9

月 23 日帰国。

- ・坂本優一郎助手（人文学研究部）は、9 月 13 日大阪発、ロンドン大学及びイングランド銀行に於いて 18 世紀のマーチャント・バンカー関係史料の研究及び調査を行い、9 月 29 日帰国。
- ・籠谷直人助教授（人文学研究部）は、9 月 28 日大阪発、自治行政部政府記録保存所（大韓民国）に於いて韓国財界に関する調査を行い、9 月 30 日帰国。
- ・水野直樹教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、9 月 27 日大阪発、光州全南大学（大韓民国）に於いて「東アジアにおける法と近代性」国際学術大会に参加及び研究発表、大田政府記録保存所（大韓民国）に於いて朝鮮における植民地支配の制度・機構・政策に関する資料収集を行い、10 月 2 日帰国。
- ・高木博志助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9 月 29 日大阪発、大田政府記録保存所（大韓民国）に於いて朝鮮古蹟調査史料の調査を行い、10 月 2 日帰国。
- ・田中雅一助教授（人文学研究部）は、9 月 28 日大阪発、マドラス大学及びボンベイ大学に於いてインドの宗教事情についての調査を行い、10 月 11 日帰国。
- ・高木博志助教授（人文学研究部）は、10 月 11 日大阪発、清平豊林コンド（大韓民国）に於いて批判と連帯のための東アジア歴史フォーラムに参加及び報告、江華島（大韓民国）に於いて植民地民族運動史蹟調査を行い、10 月 15 日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、10 月 10 日大阪発、ニューベリー図書館（アメリカ合衆国）に於いて TEI コンソーシアム年会に出席し、10 月 16 日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は、10 月 12 日名古屋発、西北大学（中華人民共和国）に於いて西北大学百周年記念式典に参加及び学術講演を行い、10 月 16 日帰国。
- ・田中祐理子助手（人文学研究部）は、文部科学省科学技術振興調整費により、10 月 13 日大阪発、

マニラダイヤモンドホテルに於いて「アジアにおける生命倫理の対話と普及」マニラ会議に出席し、10 月 16 日帰国。

- ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学技術振興調整費により、10 月 13 日大阪発、マニラダイヤモンドホテルに於いて「アジアにおける生命倫理の対話と普及」マニラ会議に出席し、10 月 17 日帰国。
- ・岩井茂樹教授（東方学研究部）は、10 月 15 日大阪発、漢学研究センター（台湾）に於いて地方文献学術研討会に出席及び報告、台湾国家図書館に於いて資料調査を行い、10 月 21 日帰国。
- ・井狩彌介教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、10 月 23 日大阪発、デリー大学に於いて日印会議に参加及びインド文学に関する研究打合せ、ケーララ州中南部及びサンスクリット高等研究所（インド）に於いてヴェーダ伝承の研究調査を行い、11 月 16 日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、11 月 14 日大阪発、北京大学古代史研究中心に於いて「古代中外関係：新史料的研究、整理と研究」国際学術研討会に出席し、11 月 17 日帰国。
- ・竹沢泰子助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11 月 20 日成田発、ハイヤートホテル（アメリカ合衆国）に於いて、2002 年アメリカ人類学会年次大会に出席及び発表を行い、スミソニアン博物館に於いて米国の文化人類学教育に関する資料収集を行い、11 月 30 日帰国。
- ・岡村秀典助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11 月 27 日大阪発、北京大学及び雲南石窟（中華人民共和国）に於いて雲南石窟調査打合せ及び調査を行い、12 月 5 日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12 月 1 日大阪発、ローマ国立中央図書館及びラウレンツィアーナ図書館（イタリア）に於いて南欧所在中国学資料に関する研究資料調査を行い、12 月 8 日帰国。

- ・水野直樹教授（人文学研究部）は、12月5日大阪発、ソウル大学韓国文化研究所及びソウル大学図書館に於いて植民地支配政策に関する講演及び旧京城帝国大学期の蔵書についての資料調査を行い、12月9日帰国。
- ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学技術振興調整費により、12月8日大阪発、ソウル・マリオットホテルに於いて「アジアにおける生命倫理の対話と普及」ソウルワークショップに出席し、12月11日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、12月8日大阪発、チュラコン大学（タイ）に於いて国際仏教学学会総会に出席し、12月14日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、12月8日大阪発、成均館大学大東文化学院（大韓民国）に於いて招待連続講演及び資料収集を行い、12月16日帰国。
- ・佐野誠子助手（東方学研究部）は、12月11日大阪発、高麗大学及びソウル図書館に於いて「中国文化興東亜細亜文化」国際学術大会に出席及び韓国所蔵漢籍調査を行い、12月16日帰国。
- ・宇佐美文理助教授（東方学研究部）は、12月15日大阪発、国史編纂委員会（大韓民国）に於いて東アジア史料研究編纂機関国際学術会議に出席し、12月19日帰国。
- ・宇佐美齊教授（人文学研究部）は、12月14日大阪発、パリ第七大学東アジア言語文化研究科に於いて国家博士号審査委員会に委員として参加し、12月20日帰国。
- ・大原嘉豊助手（東方学研究部）は、12月17日大阪発、上海博物館に於いて中国美術史料調査を行い、12月20日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、12月14日大阪発、中央研究院歴史語言研究所（台湾）に於いてデジタル・ライブラリに関する意見交換及び学術講演を行い、12月23日帰国。
- ・曾布川寛教授（東方学研究部）は、委任経理金により、12月18日大阪発、上海博物館及び河姆渡遺跡管理所に於いて中国美術の調査及び資料蒐集を行い、12月24日帰国。

- ・東郷俊宏助手（東方学研究部）は、12月17日大阪発、ハーバード大学イェンチェン図書館に於いて中国医学史関連図書文献の調査、ハーバード大学サイエンスセンター科学史部門に於いて「東アジアにおける伝統医学の近代化」に関する国際会議に出席・発表を行い、12月27日帰国。
- ・村上衛助手（東方学研究部）は、12月17日大阪発、厦門大学及び福建師範大学（中華人民共和国）に於いて中国福建省南部に関する文献・史料収集を行い、12月27日帰国。

外国人研究員

- ・張 翔 復旦大学人文学院教授
近代国家形成における日中の思想交流
(文化連関研究客員部門)
受入教官 山室教授

期間 1月5日～4月4日

- ・Jan VanBremen ライデン大学ジャパン・コリア研究センター講師
公的な記憶の物象化についての人類学的研究
(文化生成研究客員部門)
受入教官 田中助教授

期間 2月1日～7月31日

- ・Brij Mohan Tankha デリー大学講師
近代日本の地域主義
(文化連関研究客員部門)
受入教官 山室教授

期間 4月15日～7月14日

- ・張 廣達 北京大学中国古代史研究中心教授
唐代中外交通史の研究
(文化生成研究客員部門)
受入教官 高田教授

期間 8月15日～2003年2月14日

招へい外国人学者

- ・Peter Francis Kornicki ケンブリッジ大学教授
17世紀日本の読書の研究

受入教官 横山教授

期間 1月5日～4月10日

- Giovanni Verardi ナポリ東洋大学アジア学部教授

アフガニスタン仏教石窟資料の調査と研究

受入教官 栞山教授

期間 3月2日～3月31日

- San Tun ヤンゴン大学講師

西田哲学における仏教理解の研究

受入教官 菱谷教授

期間 5月7日～2003年4月6日

- 李 曉 中国上海芸術研究所研究員(教授)

明代戯曲の研究

受入教官 金教授

期間 5月12日～2003年3月11日

- 鄭 阿財 国立中正大学中国文学系教授

唐五代佛教傳布通俗化之研究

受入教官 高田教授

期間 7月10日～7月29日

- 朱 鳳玉 国立嘉義大学中国文学系

敦煌「雜字」系蒙書與歴代「雜字」書之比較研究

受入教官 高田教授

期間 7月10日～7月29日

- 蔡 榮婷 国立中正大学中国文学系副教授

祖堂集中禪宗詩偈研究

受入教官 高田教授

期間 7月10日～7月29日

- Choi Kyeong Hee シカゴ大学東アジア言語・文化学部助教授

近代朝鮮文学史と検閲問題に関する研究

受入教官 水野教授

期間 7月12日～8月11日

- 呉 春宜 国立高雄第一科学技術大学助教授

日米防衛協力の指針と台湾海峡有事との関わりについて

受入教官 山室教授

期間 9月1日～2003年2月28日

- 徐 庭雲 中央民族大学歴史系教授

中国古代婦女史

受入教官 高田教授

期間 9月13日～2003年2月14日

- Li Ma リンケピング大学助教授

数学理論の歴史的変遷に関する研究

受入教官 武田教授

期間 11月29日～12月26日

外国人共同研究者

- 徐 碩培 カリフォルニア大学ロサンゼルス

校歴史学部博士課程

戦時期朝鮮における朝鮮知識人の植民地文化認識

受入教官 水野教授

期間 4月1日～2003年3月31日

- 陳 金華 カナダブリティッシュコロンビア大

学助教授

中国中世における舍利信仰、法藏伝の研究

受入教官 船山助教授

期間 7月1日～8月27日

- 阿 風 中国社会科学院歴史研究所副研究員

中国明清時代における法律・裁判文書の研究

受入教官 岩井教授

期間 8月27日～11月24日

- 金 美賢 成均館大学校 BK 21 儒教文化圏研

究団研究助教

植民地朝鮮における女性労働力政策

受入教官 水野教授

期間 9月10日～2003年9月9日

外国人研究生

- 呉 芙蓉

羯南の対外論 ― 日清戦争前後の時期を中心に

受入教官 山室教授

期間 4月1日～9月30日

出版物

受入教官 高田教授 紀要

期間 9月13日～2003年2月14日

人文学報 第86号(紀要第141冊)

2002 年 3 月 20 日刊
東方学報 第 74 冊（紀要第 140 冊）

2002 年 3 月 29 日刊
東洋学文献類目 1999 年

2002 年 3 月 29 日刊
叢刊
漢字情報研究センター東方学資料叢刊第 10 冊
「善隣協会・善隣訳書館関係資料」— 徳島県立図
書館蔵「岡本章庵先生文書」所収 —
狭間 直樹編

2002 年 3 月 30 日刊
所報
「人文」第 49 号
2002 年 3 月 31 日刊

研究報告その他

植民地主義と人類学（共同研究報告書）
山路 勝彦／田中 雅一編
2002 年 5 月 31 日刊